

西南学院早緑子供の園
西南学院舞鶴幼稚園
西南学院小学校
西南学院中学校・高等学校
西南学院大学

2025 年度
学校法人 西南学院
事業計画書



建学の精神

“Seinan, Be True to Christ”

西南よ、キリストに忠実なれ

西南学院は 1916 年、米国南部バプテスト派の宣教師 C. K. ドージャーによって創立されました。創立者の遺訓“Seinan, Be True to Christ”(西南よ、キリストに忠実なれ)は、建学の精神として受け継がれ、現在もキリスト教を基盤とした独自の教育を実践しながら、キリスト教的人間観、世界観に立ち、奉仕の精神をもって社会に貢献する人を送り続けています。

西南学院の使命

学校法人西南学院は、「キリストに忠実なれ」の建学の精神に基づいて、真理の探求および優れた人格の形成に励み、地域社会および国際社会に奉仕する創造的な人を育てることを使命とする。

Mission Statement of Seinan Gakuin Educational Foundation

Seinan Gakuin, an educational institution endeavoring to be true to Christ in the pursuit of truth in academic affairs and excellence in character development, strives to equip and nurture students to serve as creative and constructive leaders in local communities and in an expanding global society.

目 次

はじめに	1
I. 学校法人西南学院事業計画.....	3
II. 西南学院早緑子供の園事業計画.....	6
III. 西南学院舞鶴幼稚園事業計画.....	10
IV. 西南学院小学校事業計画.....	12
V. 西南学院中学校・高等学校事業計画	15
VI. 西南学院大学事業計画	21

はじめに

1916年、福岡市大名町にて教職員9人、生徒104人からスタートした「私立西南学院」が、現在の学校法人西南学院(以下、「学院」という。)の母体である。

1921年には旧専門学校令による高等学部を開設し、1940年、西南保姆学院を開設。第二次世界大戦を経て1947年に中学校、1948年に高等学校を開設、1949年の大学設置へと繋がる。そして、1950年には早緑子供の園(保育所)と舞鶴幼稚園を学院内組織に組み入れたことによって、現在の学院の基盤ができあがった。

その後、大学の学部・学科や大学院の研究科の充実、中学校・高等学校の男女共学化及び一貫教育の実施等を経て、2010年に小学校を開設し、現在の学院組織が完成した。

創立者 C.K.ドージャーの教育理念は「キリスト教に基づく人格教育」であり、その遺訓である“Seinan, Be True to Christ - 西南よ、キリストに忠実なれ-”は、「建学の精神」として現在に継承されている。

1999年3月には、建学の精神を踏まえて、「西南学院の使命」を「学校法人西南学院は、「キリストに忠実なれ」の建学の精神に基づいて、真理の探求および優れた人格の形成に励み、地域社会および国際社会に奉仕する創造的な人を育てることを使命とする。」と定義した。

また、2014年12月には、今後も建学の精神を守り、さらに発展し続けるために「西南学院ビジョン 2016-2025」(P2 図1 参照)を策定した。これは、2016年5月の創立100周年にあたり、現代の視点で建学の精神を見つめ直すことで、学院の全構成員が一つの将来像に向かって共通の目標を持ち、創立100周年以降も進み続けようとするものである。

さらに、2015年12月には、ビジョンを具現化するため、各学校・園・保育所において検討を重ね、「中長期計画 2016-2025」を策定した。策定においては、学院が擁する保育所、幼稚園、小学校、中学校・高等学校及び大学のすべてにわたって、一人ひとりを大切にしたい保育・教育を続けるため、「ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題」と「アクションプラン」を議論し、精査したものを取りまとめた。

「中長期計画 2016-2025」は前半5年を前期中期計画、後半5年を後期中期計画と位置づけており、2020年度をもって「中長期計画 2016-2025」のうち前期中期計画を終了することとなる。2021年度からの後期中期計画を迎えるにあたり、各学校・園・保育所では前期中期計画の振り返りを踏まえ、改めて後期中期計画において取り組むべき課題を洗い出し、具体的に取り組む内容をアクションプランとして再設定した。

本事業計画書は建学の精神から現場業務まで繋がる一貫性(P2 図2参照)のもとに、上述の「建学の精神」、「西南学院の使命」、「西南学院ビジョン 2016-2025」、「中長期計画 2016-2025」に続き、「2025年度事業計画」を計画書として取りまとめたものである。

図 1 「西南学院ビジョン 2016-2025」



人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

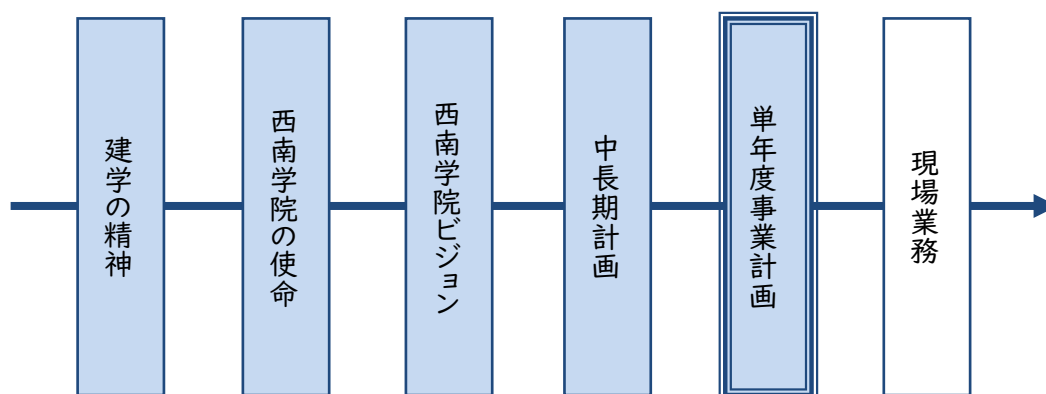
教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

国際感覚:異文化を受容し、行動できる国際性の修得

地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

図 2 建学の精神から現場業務まで繋がる一貫性



I. 学校法人西南学院事業計画

1. 教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学院全体の ICT 環境の整備	(1)事務システム(事務用 PC、サーバ等)の更新を行う。
	(2)各学校・園・保育所の状況に即したポータル・グループウェアの更新を行う。
	(3)各学校・園・保育所の状況に即した働き方の変化に伴う情報インフラ整備に関する検討と整備を行う。

<2025 年度事業計画>

- (1)2024 年度までに実施した事務システム更新に関する事項の検討、並びに事務局 DX 推進を考慮した内容を反映した次期事務システム更改要求定義書に基づき、導入業者選定、導入システムの決定、予算策定を行う。
- (2)2024 年度までに実施した「ポータル・グループウェアから Microsoft365 へ移行について比較検討調査」「新しい技術やパッケージ製品、オープンソースのシステム等の調査」の内容を反映した次期事務システム更改要求定義書に基づき、導入業者選定、導入システムの決定、予算策定を行う。
- (3)サーバのクラウド化、将来的なりネットワーク環境への対応を想定した、次期事務システム更改要求定義書に基づき、導入業者選定、導入システムの決定、予算策定を行う。

2. 地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
行政、社会福祉協議会及び災害支援団体との連携強化	(1)地域、行政を交えた机上訓練を行い、より具体的な防災計画の作成および訓練を行う。また、各学校・園・保育所の防災計画と対策について把握し、協力体制構築に向けた検討・協議を進める。
	(2)災害ボランティアセンター設置候補地として、災害時に機能できるよう整備する。

<2025 年度事業計画>

- (1)・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により訓練が実施できていなかったが、福岡市及び早良区との繋がりが出来たため、近隣地域(西新校区自治協議会)も含め、防災の取組みについて認識を合わせ、発災時の役割分担などを確認する機会を設ける。
・非常参集の枠組み案を構築し、机上訓練を実施する。
- (2)2024 年度に本学で実施した「福岡市災害ボランティアセンター設置・運営訓練」について、関係機関と共に検証・改善を行う。また、災害時に機能できるよう、平常時から協力体制を保持する。

3. 経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
各学校の同窓会や後援会との連携強化	各学校の同窓会との連携強化を行うとともに、小学校同窓会の立ち上げの支援や舞鶴幼稚園、早緑子供の園の卒業生データ管理について協議する。

<2025 年度事業計画>

- ・校友業務を広報課から社会連携課へ移管することにより、同窓会のネットワークを活かした地域社会との連携を強化、推進する。
- ・小学校と連携を図りながら、同窓会設立に向けて必要とされる支援体制の整備を行う。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
募金事業の推進	大学サポーターズ募金を推進する。使途に体育館、西南会館建設を加える。また、他の学校・園・保育所においては新規の募金事業の創設に向けた検討を行う。

<2025 年度事業計画>

- ・新西南会館建設が正式に承認された場合は、大学サポーターズ募金に新西南会館建設支援を使途とするメニューを新設し、寄付活動を展開する。
- ・2025 年度も継続して大学以外の各学校・園・保育所に対して、募金事業創設に向けた協議を行う。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
各費目の支出配分の適正化に関する検討	将来計画を考慮した上で保有資金量を試算し、収入に対する支出項目の配分を検討するとともに支出項目見直しの検討を行う。

<2025 年度事業計画>

収入に対する支出項目の配分を検討しながら、将来計画を考慮した財政計画を策定する予定である。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学院全体としての広報活動の強化	各学校の広報担当者へヒアリングを行い、学院全体としての効果的な広報活動について協議する。また、舞鶴幼稚園及び早緑子供の園のホームページ充実のための支援を行う。

<2025 年度事業計画>

- ・学院広報誌委員会などを通して各学校・園・保育所の広報担当者と積極的な情報交換を行い、各学校・園・保育所の取り組み事例や教育内容など、様々なステークホルダーにご理解いただけるコンテンツを発信する。
- ・広報誌、HP、SNS、メルマガなど様々な媒体を駆使し、より充実した学院コンテンツを、より多くのステークホルダーに配信し、西南ファンの更なる獲得を目指す。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
教職協働の強化に向けた事務局人事考課制度・役職位任免制度の見直し	人事考課制度ならびに役職位任免制度を改正し、運用後の検証を行い改善を検討する。

<2025 年度事業計画>

2021 年度に改正した人事考課制度及び役職位任免制度を引き続き実施展開する。実施においては 2024 年度までの実施状況を踏まえ、適宜修正を行いつつ、総括を行うための準備をする。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
教職協働の強化に向けた事務局研修制度の見直し	研修制度の抜本的な見直しを行い、改正研修制度の運用並びに検証を行う。

<2025 年度事業計画>

2021 年度に改正した研修制度を引き続き実施展開する。研修全体の制度設計は維持しながら、2024 年度までの課題を改善する形で各研修を実施する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
迅速かつ効果的な意思決定システムの整備	(1) 法人役員・役職者に係る決裁権限を明確にする。
	(2) 稟議制度を改善する。

<2025 年度事業計画>

- (1) 「西南学院本部・大学役職者等の決裁事項に関する規程[2025 年4月 1 日施行]」に基づく運用において、制度の検証を行い、必要に応じて改善を図る。
- (2) 「西南学院稟議規程[2025 年4月 1 日施行]」に基づく運用において、制度の検証を行い、必要に応じて改善を図る。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学院全体の IR ¹ 活動の推進	(1) 経営 IR への取組み事例を蓄積し、基幹業務としての経営 IR がどのような形で行われることが適切であるかを検討する。
	(2) 大学以外の各学校・園・保育所へ IR の必要性を啓発するための取り組みを行い、各組織のデータの収集及び整理を進める。

<2025 年度事業計画>

- (1) 経営 IR の活動方針策定に向けて、他の学校法人における経営 IR の取組み事例の調査を行う。
加えて、事務局各部署の依頼を起点とし、意思決定に資するデータを Tableau（可視化ツール）を用いて作成する。
- (2) 併設校のうち、西南学院中学校・高等学校の IR 活動の必要性の確認を行う。中学校・高等学校での IR 活動の必要性の確認結果を踏まえ、今後の IR 活動の進め方などについて検討する。

¹ IR : Institutional Research

Ⅱ．西南学院早緑子供の園事業計画

Ⅰ．人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
保育理念の浸透と実践	教職員がキリスト教について学びを深めるとともに、子ども自身の尊厳を守り、子ども自身を取り巻く環境（家族や友だち、教職員など）との繋がりの大切さへの気づきを与える保育を実践する。

<2025 年度事業計画>

2024 年度に引き続き、毎月の園だよりのテーマに沿って各クラスで保育を振り返り、クラスのページを作成することで、キリスト教に基づいた園の保育理念を日々の実践とつなげて確認する。保育内容検討会では、全体的な計画と 0 歳児から 5 歳児までの連続した発達を考え合わせ、日々の保育の意味付けをする。加えて、必要に応じて、保育内容検討会の参加対象ではない非常勤保育士や給食職員にも、保育理念と実践との関連を説明し、園全体で保育理念を共有していく。

2．教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
保育の充実	日々の取組みの点検と検証を通して、保育実践の改善を図る。

<2025 年度事業計画>

複数名で同時に学び合う従来の形式での園内研究会の実施が、保育体制の観点から難しい場合には、後日学びを共有する機会を設けるなど、方法を工夫し、各クラスの必要度に応じて実施できるようにする。保育内容検討会も、一度に参加がかなわない時は同じ内容の検討会を複数回実施するなどして、全員で、日々の保育について考え、保育観の共通認識を図る。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
保育者の専門性の向上	保育者の専門性向上に向けて、経験や年齢に即した研修計画の策定や実施等、PDCA サイクルの確立を行う。

<2025 年度事業計画>

保育体制などの関係から、計画通りに進められていない非常勤保育士や新任保育士を対象とした勉強会を、時間帯、日程を工夫するなどして、可能な限り継続的に実施する。内容は、それぞれの保育実践の実情に見合った実りあるものとするために、クラスリーダーから保育の現状を聞き取ったうえで検討する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
保護者との連携強化	家庭と保育所の連携を強化し、子育て支援の充実を図る。

<2025 年度事業計画>

保護者の園に対する理解を深め更に連携を図るために、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で縮小や形態の変更をしてきた園行事の内容や方法を再考し、保護者にとっての園行事という視点で、計画を見直す。具体的には、乳児クラスの保育参観の時間帯や参観内容の工夫、運動会の開催日時と方法、保護者懇談会の内容充実を検討し、実施する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
西南学院大学との連携強化	西南学院大学人間科学部との保育者養成に関する協力・連携体制を整備、また、共同での実践研究やフィールドの提供を行う。

<2025 年度事業計画>

保育実習を受入れる際、大学で検討中の実習日誌の手書きからパソコンへの入力化を率先して実施するなど、大学の人間科学部と連携を図りながら学生にとっての保育実習の充実を目指す。また、乳幼児期の子どもを対象とした大学の外国語学部の研究についても継続して受入れ、大学の研究フィールドとしての役割を果たす。

3. 国際感覚・異文化を受容し、行動できる国際性の修得

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
異文化や多様性への興味や関心に基づく親しみの醸成	日常の中で異文化や多様性を意識するとともに、それらに触れる機会を積極的に設ける。

<2025 年度事業計画>

2023 年度に改変し、2024 年度にピックアップして確認した各年齢の保育内容のうち、多様性を受入れる心の土壌を培うことに関連する内容について、保育内容検討会において再度話題にする機会を持つ。そして、その視点が各クラスの保育計画に反映されているか、引き続き指導計画を点検したり、園内研究会の折に保育観察の観点としても取入れる。

4. 地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
地域への子育て支援の強化	(1)園庭の地域開放や園行事(こどもまつり、運動会、クリスマス等)を通じ、地域住民への子育て支援の充実を図る。
	(2)地域に向けた育児講座や育児相談、各機関等からの見学受け入れを通じて子育て支援の充実を図る。

<2025 年度事業計画>

- (1)新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、園行事の実施内容や方法の検討を進めており、こどもまつり、運動会、クリスマスなどの行事は園児中心で行うこととした。そのため地域の方に対しては育児講座、保育園で遊ぶ会を来園の機会として提供するように計画を変更し、それらの内容の充実を図る。
- (2)地域の開かれた保育所として、核となって地域の保護者同士のつながりを深め、保護者支援、子育て支援の一端を担うために、地域の子育て家庭が参加する行事の充実を図る。その一つである保育園で遊ぶ会では、既存のプログラムに加え育児相談コーナーを設ける。また、年2回実施する育児講座を、園のホームページや別の行事の機会を利用して、更に広く地域に呼びかけ参加者を募る。

5. 経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
安全管理・危機管理の徹底	安全管理・危機管理マニュアルの見直しとともに、防災・防犯に関する対策行動や設備・機器・備品の点検を実施する。

<2025 年度事業計画>

毎月行う避難訓練について、現行の火災、地震発生後の火災、水害を想定した訓練に、不審者侵入時の対応も加えて実施する。その上で安全管理・危機管理マニュアルの見直しと再確認を行う。舞鶴幼稚園との合同避難訓練は、園庭に避難した後の移動も見据えて、両園での連携や避難場所の選定も併せて計画をし、実施する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
組織体制の整備	(1)チームワークの発揮や業務の質の向上及び効率化に向けて、役割や業務内容を整理し、現状の組織の妥当性や改善点を検討する。
	(2)保育の充実と安全な保育体制構築、経営基盤の安定化のため、クラス担任の保育士数確保に向けた方策・方針を固める。
	(3)現代の社会情勢と保育所に課せられる使命を踏まえ、保育の重要な一部である食育について、充実を図るため、給食調理員の求められる専門性と重責を鑑み、雇用条件見直しと専任化を図る。

<2025 年度事業計画>

- (1)事務室業務について、契約事務職員の新規採用に伴い、仕事の引継ぎを最優先に行う。その中で、今後の事務の業務について、役割分担と体制の検討を併せて進める。保育者の事務業務については、パソコンをクラスに 1 台購入し、会議資料、行事準備、文書作成などを効率的に進める体制を構築する。その際、個人情報や機密文書の扱いなど、留意点や作業の手続きについても確認する。
- (2)2024 年度に承認された保育士定数の充足を図るため、学生対象の採用説明会を開催する。新卒学生が保育所を知り、保育の道に進む動機付けにするとともに、学生の視点における保育職の印象や不安点などを把握し、今後の優秀な人材確保の一助とする。非常勤のクラス担任については、新規雇用の可能性の有無を、福岡市や他園から情報を収集し、今後の体制を検討するための参考とする。
- (3)新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、数年未実施となっていた保護者対象の給食試食会を実施し、子どもの食について、また、食を通した子育てについて保護者との共通認識を深めるきっかけとする。そして園として大切にしたい保育の中の食育について、引き続き取組み、保育室との連携を深めていくため、更に優秀な人材確保の観点から、2025 年度で契約期間満了となる給食職員の継続雇用を目指す。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
施設・設備の整備	環境変化や老朽化を踏まえ、改修計画を策定し計画的に修繕・改修を進める。

<2025 年度事業計画>

必要な修繕や改修を、優先度に沿って、以下の通り進める。危機管理の面から各扉の鍵と戸車の修理と調整、衛生面から調乳室のカーテン設置、保育環境整備の面から 2 階廊下のカーテン設置を実施する。同時に、2026 年度以降においても計画的に修繕や改修を進めるために、施設・設備の不具合箇所などを点検して、現在の計画の確認と見直しを行う。

Ⅲ. 西南学院舞鶴幼稚園事業計画

1. 人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
舞鶴幼稚園の保育理念（ひかりのこを目指す）の実践	自己肯定感を育み、仲間づくりを重視した保育を実践する。

<2025 年度事業計画>

- ・各学年で毎日その日の振り返り、反省を行い、翌日に向けた打ち合わせ、今後の計画、子どもの様子の伝え合いなどを行う。
- ・職員会議にて、各学年の子どもの姿について話し合う。

2. 教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
園内研究会の充実と研修参加の促進	園内研究会の計画的な実施、及びそれぞれの教員の自己研究・研修参加を通じて、幅広い知識や技能を身に付け、保育に生かす。

<2025 年度事業計画>

- ・様々な研修会の情報周知を進めていく。また、園外研修会の参加について計画し、参加する。
- ・園内研修会を充実していく。研修会の内容によっては非常勤教諭も共に学ぶ機会を年に数回設ける。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
大学の各組織（学部、事務局）との連携と学生（授業、実習、卒論）の受け入れの促進	人間科学部児童教育学科の教員や学生と連携した研究、研究会、保育実習生の積極的な受け入れなどを通して、保育理論と実践の融合を図る。

<2025 年度事業計画>

- ・大学の授業との関わりを積極的に受入れる。
- ・保育実習生を積極的に受入れる。
- ・今後の大学との連携のあり方を検討する。

3. 国際感覚:異文化を受容し、行動できる国際性の修得

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
「インクルーシブ保育」の深い理解と実践	園児一人一人の違いや思いを大切に、一人の人として尊重しながら関わっていく「インクルーシブ保育」を実践する。

<2025 年度事業計画>

- ・配慮を要する子のフォロー態勢の確保と、具体的なフォローの仕方の検討を行う。
- ・インクルーシブ保育に関する研究会を企画・実施する。
- ・保護者にも懇談などを通じて園の考えを周知していく。

4. 地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
子育て支援全体の見直しと発信方法の検討	Web ページの活用や広報媒体の見直しなどを通して、子育て支援に関する取組みを積極的に外部に発信する。

<2025 年度事業計画>

- ・改修が終わったホームページを活用して、子育て支援に関する情報発信を強化していく。
- ・子育て支援の内容を検討し、改善を図っていく。
- ・地域の子育て支援センター的役割をさらに強めていくための検討を重ねる。

5. 経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
災害時対応の検討	災害発生時を想定した学院との連携に基づく危機管理体制の整備を進めるとともに、地震や水害等の自然災害を想定した避難体制を整備する。

<2025 年度事業計画>

- ・火事や地震などを想定した避難訓練を年3回実施する。(うち一回は早緑子供の園との合同避難訓練とする。)
- ・具体的な災害時対応をまとめ、教職員で共有するとともに、保護者にも伝えていく。
- ・災害時マニュアル作成を完了する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
教職員体制の整備	質の高い保育を維持できる教職員体制の見直しと整備を進めるとともに、事務関連業務(人事・経理関係、補助金申請等)の継続的な支援体制に関する検討と改善を行う。

<2025 年度事業計画>

- ・質の高い保育ができていくかどうかの検討を行い、常に改善を図っていく。
- ・副園長と事務職員の連携を強め、事務処理をスムーズにしていく。
- ・事務業務、副園長業務の引継ぎの仕方を検討する。

IV. 西南学院小学校事業計画

1. 人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
様々な取組みを通じた児童・保護者へのキリスト教主義に基づく教育理念の浸透	(1)聖書教育の教科横断的な取組みの具現化、カリキュラム化を図る
	(2)・教科横断的な取組みの具現化、カリキュラム化 ・各種教育カリキュラムについての特別委員会を組織する

<2025 年度事業計画>

- (1)・全教員対象の聖書研究会を年 5 回実施する。
 - ・保護者チャペルを年 2 回行う。(ミッションウィークにて)
 - ・学級担任が年 1 回聖書科授業を行う。
 - ・新任研修にて聖書の学び会を行い、キリスト教教育を行う私学人としての学びを深める。
- (2)・人権意識を高めるための職員研修の実施、子どもの人権感覚を育むための授業実践を行う。
 - ・年 1 回以上授業実践とカリキュラムの検討、追加を行うための組織編制をし、教科横断的なカリキュラムを完成させる。

2. 教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
教育目標具現化の手だての実践と点検	教育目標具現化に向けた PDCA サイクルの確立と実施

<2025 年度事業計画>

- ・2024 年度の 3 月に見直しを行った学級経営案、学年経営案の形式を 4 月に確認し、児童の実態を踏まえて、5 月までに計画を作成する。
- ・7 月に 1 学期に実施した教育活動を評価し、各学年部で情報交流を行い、2 学期の指導に生かす。
- ・12 月に 2 学期に実施した教育活動を評価し、各学年部で情報交流を行い、3 学期の指導に生かす。
- ・3 月に、年間を通して実施した教育活動の評価を行い、全体での情報交流の時間をとって、2026 年度に引き継ぐ内容について検討する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
児童の外国語教育に対する理解向上に向けた環境整備	(1)外国語を取り入れた授業実施に向けた教員研修会の実施
	(2)外国語教諭の複数採用

<2025 年度事業計画>

- (1)外国語の研究授業を年 2 回行う。子どもたちの発達を理解している担任も授業に積極的に関わりながら進める。
- (2)・少人数クラスのための教室を確保する。
 - ・少人数クラスのための授業内容を検討する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学校全体をあげた教員の指導力向上	研修における PDCA サイクルを構築するとともに、研修や研究等を通じて習得した知識や技能を教員間で共有する体制を整備する。

<2025 年度事業計画>

- ・2024 年度の 3 月に見直しを行った学級経営案、学年経営案の形式を 4 月に確認し、児童の実態を踏まえて、5 月までに計画を作成する。
- ・7 月に 1 学期に実施した教育活動を評価し、各学年部で情報交流を行い、2 学期の指導に生かす。
- ・12 月に 2 学期に実施した教育活動を評価し、各学年部で情報交流を行い、3 学期の指導に生かす。
- ・3 月に、年間を通して実施した教育活動の評価を行い、全体での情報交流の時間をとって、2026 年度に引き継ぐ内容について検討する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
ICT 環境の整備と活用	(1)タブレット等端末及び校内ネットワーク環境の整備の実施
	(2)ICT を活用した授業実施に向けた教員研修会の実施

<2025 年度事業計画>

- (1)・タブレット端末は 2026 年度に一斉更新をかける。それに向けて、2025 年度は、4～6 月にタブレット端末のスペックや周辺機器(ケース・キーボード)について検討し、7～8 月にスペック内容の決定と業者との打ち合わせを行う。
 - ・体育館や運動場の Wi-Fi 環境を拡充する。
- (2)・デジタル・シティズンシップに関わる研修会と授業研究を実施する。
 - ・ICT を活用した校務効率化を図る研修会を実施する。

3. 国際感覚・異文化を受容し、行動できる国際性の修得

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
異文化や多様性に触れる機会の充実	・留学生(大学別科)との交流を定期的に行う ・外国語、各教科における留学生交流の具体的計画 ・大学との連携の仕方について協議する(留学生側の授業化など)

<2025 年度事業計画>

- ・留学生との交流活動を年 3 回実施する。さらに、国際感覚に精通した外部講師による研修や授業を行う。
- ・ウィングツアーで、児童がこれまでの学びを活かせるよう、児童一人ひとりが十分にアウトプットできる授業を行う。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
行事の目的と教育的価値の検証と改善	現在行われている行事の評価及び改善や見直し(代替・廃止)の実施

<2025 年度事業計画>

- 2024 年度に見直しを行った各行事を実施し、実施結果にもとづき再度行事の検証を行う。

4. 地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
地域の自治協議会等と連携してのボランティア活動の実施	地域と連携しての活動や運動の計画の策定と実施

<2025 年度事業計画>

- ・地域を教材化した内容について、各学年で作成した教育指導計画を確認し、活動の実施時期に合わせて準備を行う。
- ・児童の実態に即した形で、地域の状況に臨機応変に対応しながら活動を実施する。

5. 経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
志願者の安定的獲得に向けた広報強化	広報活動の組織化と広報活動の計画の策定と実施

<2025 年度事業計画>

広報部を中心にパンフレット、動画の制作業者を選定し、パンフレット、動画作成を実施する。併せて、SNS などを利用した広報活動を実施する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
小中高教職員の交流、連携強化	小中高の連携強化のための計画策定と実施

<2025 年度事業計画>

小中高連携について、2024 年度の活動の検証を 4 月までに行い、2025 年度の活動計画を 5 月までに策定する。また、活動計画に沿って、計画を実施する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
各学校・園・保育所との交流基盤の整備	各学校、園、保育所との交流の計画策定と実施

<2025 年度事業計画>

- ・保育所・幼稚園との交流について、2024 年度の活動の検証を 4 月までに行い、2025 年度の活動計画を 5 月までに策定する。また、活動計画に沿って、計画を実施する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学校の改善向上のための学校評価の実施	児童と保護者への学校評価の実施とフィードバック

<2025 年度事業計画>

- ・2025 年度の学校評価を年 2 回実施する。
- ・評価結果を保護者向けに公開し、改善事項を検討する。
- ・学校評価の評価項目について検討する。

V. 西南学院中学校・高等学校事業計画

1. 人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
チャペルやミッション・ウィークを活用した「いのち」を大切に教育や「人権教育」の充実、また、「いじめ」防止に向けた教育プログラムの充実	(1)チャペル講話やミッション・ウィークを活用した「いのち」を大切に教育の充実
	(2)人権・「同和」教育特設ホームルームをはじめとする「人権教育」の充実
	(3)「いじめ」防止に向けた教育プログラムの充実

<2025 年度事業計画>

- (1)チャペルやミッション・ウィークを通じて、自他に与えられたいのちの尊さを深く理解する機会を設け、内容の充実を図る。
- (2)人権・「同和」教育特設ホームルームでの講演や視聴覚教材による授業などを通じて啓発活動を継続し、更なる内容の充実を図る。
- (3)各種講演や授業、「いじめ」アンケートの実施と振り返りなどを通じて啓発活動を継続し、更なる内容の充実を図る。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
生徒が主体的に企画・運営するチャペル企画やボランティア活動の充実	路上生活者や生活困窮者への支援物資受付等、ボランティア活動の充実、日本 YWCA 全国カンファレンス等への参加

<2025 年度事業計画>

路上生活者や生活困窮者への支援物資受付など、生徒が参加可能なボランティア活動を計画・実施し、内容の充実を図る。2025 年 8 月に開催される日本 YWCA の全国カンファレンスへの生徒の参加を奨励する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
生徒に対するサーバントリーダー育成のための教育プログラムの充実	校内・校外での「クリスマス募金」や「震災忘れない募金」等の展開

<2025 年度事業計画>

校内外で実施する「クリスマス募金」や「震災忘れない募金」活動を通じて、生徒が他者に仕え、配慮しながら行動することの実践機会を設ける。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
交流プログラムによる平和学習の充実	中学 3 年沖縄修学旅行や韓国への(からの)旅等による平和学習の充実

<2025 年度事業計画>

事前学習プログラム及び事後の報告の刷新、充実を図り、沖縄修学旅行での民泊、韓国でのホームステイ、フィールドワークを通しての平和学習と交流を継続する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
地域の教会や他のキリスト教主義学校との 連携によるプログラムの充実	地域教会やキリスト教主義学校等との連携活動

<2025 年度事業計画>

地域の教会の牧師や他のキリスト教学校の教員などにチャペルでの協力を依頼するなど、連携に継続して努める。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
外部講師による講演会やチャペル講話の 充実・強化	外部講師の招聘による啓発機会の創設

<2025 年度事業計画>

社会の諸方面で多彩な活動をしている方を招き、生徒が様々な新しい見解や知見に接する機会を増やす。また、そのための情報収集に努める。

2. 教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
カリキュラムの整備と教科教育の充実 (カリキュラム・教科教育)	各教科の新教育課程における教育内容の充実のため、教科会議の充実を図るとともに、より良い教育課程の実現のため、「教育課程 R&D ワーキンググループ(仮称)」を設置し、教育課程の検討や教務規程の見直しを行う。

<2025 年度事業計画>

中学校・高等学校ともに新学習指導要領に対応して編成されたカリキュラムを計画的に実践する。さらには、中学校・高等学校の各教科においてカリキュラム移行後の教育内容を検証し、教育内容の更なる充実に向けた検討を行う。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
英語教育のさらなる充実	(1)英語教育の検証と改善案の策定及び大学入試改革に対応したカリキュラムの検討と改善
	(2)英語外部検定試験に対応した英語教育プログラムの充実と生徒が CBT ² に対応するための環境の整備を推進する。

<2025 年度事業計画>

- (1)オンライン英会話授業の運用状況と効果測定について、英語科を中心に検証し、必要に応じて運用計画の見直しを行う。また、生徒の更なる語学力向上のための方策について検討する。
- (2)英語外部検定試験(GTEC)を計画的に実施し、実施後の検証を行うとともに、英語外部検定試験の導入と活用に基づく入試制度について、情報収集と分析を継続して行う。

² CBT…Computer-based Testing (パソコンを用いて行われる試験)

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
・キリスト教理念に基づいた進路指導の実現（一貫生については中高6年間を通じての一貫したキリスト教理念に基づいた進路指導のあり方の構築） ・多様化する大学入試に対する適切な情報提供と各学年において磨いていくべき資質・能力に関する指導 ・生徒の主体的な進路選択を促す取組みの強化（西南学院大学との連携した教育活動の活用） ・海外の大学への進学を希望する生徒への進路指導の充実	(1)キャリア教育（進路指導）体制および手法の見直し
	(2)高大接続および高大連携の課題に対応した進路指導の充実
	(3)海外大学進学への支援体制の構築

<2025 年度事業計画>

- (1) 中学校・高等学校とともに、現在行っている各種進路説明会や大学説明会、2022 年度より実施されているサマーチャレンジなどを継続的に実施し、その効果を検証するとともに、キャリア教育の更なる充実に向けた今後の基本方針について検討する。
- (2) 本校と各大学の間での高大接続や高大連携の仕組みや制度について検証し、今後の進路指導における活用のあり方について検討する。また、西南学院大学との連携を通じて、中学生や高校生の主体的な進路選択を促す取組みを拡充する。
- (3) 海外進学を希望する生徒の現状やニーズを把握するとともに、進路・進学指導について、専門業者及び海外大学と連携しながら進めていく。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
教育支援体制の整備と充実 (教育支援)	教育支援体制の整備と充実

<2025 年度事業計画>

支援を必要とする生徒の情報を共有し、様々な支援体制の充実に向けた校内研修を行い、関係機関との連携強化に努める。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
教員研修制度の充実 (教員の資質向上)	(1) 研究授業の積極的展開
	(2) 研修制度の見直しと検討

<2025 年度事業計画>

- (1) 各教科を中心に、研究授業や研究発表を適宜実施して教科教育の更なる充実に図るとともに、自主的な研究発表や勉強会への支援に向けた研修を検討し、関係機関との連携強化に努める。
- (2) 「働き方改革」により、宿泊を伴う研修のための出張依頼が難しくなっている現状を踏まえ、現行の研修実施状況を検証し、改善に向けた方策や、オンラインによる研修などの新たな研修制度の創設を検討する。

3. 国際感覚・異文化を受容し、行動できる国際性の修得

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
国際交流プログラムの拡充	多様性を認め合う共生社会の形成に向けた国際交流プログラム(海外研修・留学制度)の充実

<2025 年度事業計画>

訪豪研修旅行(中学校・高等学校)、ベトナム研修旅行(高等学校)、アメリカ研修旅行(高等学校)、イギリス研修旅行(中学校)、ピース・メイキング・プログラム、インターナショナル・デイ・キャンプ、フィールドトリップ・イン・イングリッシュ、ターム・年間留学制度の実施と検証を継続する。また留学生の受入れについても更に充実を図る。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
帰国生徒受け入れ制度の整備	帰国生への対応(募集拡大、教学支援の検討)

<2025 年度事業計画>

近年の帰国生徒入試結果や入学後の状況などを総合的に検証し、多様な生徒の募集を目的とした受験資格や条件緩和のあり方について検討する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
留学生受け入れ制度の整備	海外からの留学生の受け入れに関する支援体制や制度の充実 ・留学生の受け入れに関して、留学斡旋団体とのやりとりや留学生のケアを専門で担当する職員(または部署)を置き、より多くの留学生を招くことを可能にする。 ・留学生の授業参加の仕方を見直し、留学生が一般の生徒と同様に実際の学びができるように受け入れ状態を整える。(留学生+希望生徒による英語によるディスカッション形式の授業などの設定)

<2025 年度事業計画>

受入れクラスの割当や具体的な支援体制など、海外からの留学生受入れに際してのルールを策定し、校内制度としての明文化を検討する。

4. 地域貢献:進化する福岡とともに歩む学院としての自覚と協働

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
ボランティア活動やイベント等の地域貢献 活動・地域福祉活動の充実	(1)街頭募金、震災忘れない募金、社会福祉施設訪問の継続 キリスト教学校フェア等、他校と協力して実施する活動を通 じて、キリスト教主義の学校として地域社会に貢献する。
	(2)生徒会による選挙公報活動や地下鉄乗車マナーアップ キャンペーンへの協力
	(3)地域の小学生や保護者を対象とした理科実験体験等の 機会提供のほか、出前授業や体験学習、PTA 学校訪問等 を小・中学生へのキャリア教育に貢献できる取組みとして 実施する。

<2025 年度事業計画>

- (1)クリスマスや震災復興支援の街頭募金、地域住民対象のコミュニティークリスマス実施など、現在の取組
みを今後も継続する。
- (2)生徒会による選挙公報活動や地下鉄乗車マナーアップキャンペーン活動への協力、被災地支援活動を今
後も継続するとともに、地域からの意見や要望を収集するための方策について検討する。
- (3)本校からの出前授業や中学生の体験入学、PTA 学校訪問の受入れなど、小・中学生や地域住民・保護
者への情報提供を目的とした活動を今後も継続するとともに、参加者の意見や要望を収集するための方
策について検討する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
地域との連携 (地域住民との連携)	(1)災害発生時の避難場所提供等の防災協力体制の充実
	(2)百道浜自治協議会との連携強化

<2025 年度事業計画>

- (1)本校近隣の地域住民に向けた防災協力体制（防犯対策や交通安全対策を含む）や具体的内容、情報共
有のあり方について継続して検討する。
- (2)地域との連携に向け、自治協議会関係者との情報交換や懇談、地域住民からの意見や要望を収集する
ための方策について検討する。

5. 経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
安定した財政基盤の構築	安定した財政基盤の構築に向けた財政計画の策定

<2025 年度事業計画>

教職員を対象に、本校ならびに学院全体の財政状況や財務上の課題について理解を深め、年間の教育活
動計画に沿った予算編成方針について周知する機会を設ける。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
部活動のあり方の見直し	課外活動（部活動）のあり方を検討・改善による教員の負担軽減に向けた取組の実施

<2025 年度事業計画>

課外活動に費やす指導時間や指導日数を削減することを目的として、各教員の課外活動計画を見直す。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
校内業務の効率化	ICT 化を推進し、校内業務の効率化を進め、負担軽減を図る。

<2025 年度事業計画>

教員の出退勤管理について、利便性改善に繋がる改修をパッケージシステム業者に提案する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
運営管理体制の充実	(1)様々な課題の解決に向けた委員会等の設置や既存の会議の整理等、組織体制の見直し
	(2)危機管理体制（災害対応・施設強化を含む）の充実・強化
	(3)校友行政の強化・同窓会との協力関係強化
	(4)後援会との協力関係強化（情報提供のさらなる充実、専用ホームページの検討）

<2025 年度事業計画>

- (1)現在の各委員会や会議体が抱える問題点や課題、特に委員長の任期など、懸案事項を抽出・分析し、課題解決に導くための具体的な方策を検討する。
- (2)危機管理マニュアルの整備や防災備蓄計画についての検討を継続する。
- (3)学校と同窓生の情報交換の機会が増え、具体的な交流が深まっている現状に鑑み、支援金・寄付金・奨学金のあり方について具体的に、校長、副校長、教頭、事務長が中心となって、同窓会役員との協議を推進する。
- (4)学校から保護者への情報提供のあり方について、校長、副校長、教頭、事務長が中心となって、後援会役員との協議の場を設ける。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
広報活動の充実 （広報活動）	中学校・高等学校全体のブランディング・広報戦略の充実・強化

<2025 年度事業計画>

昨今の物価高騰を踏まえ、経費を抑えながら有効な広報手段を模索する。Instagram の活用性を見出す。同時に、動画の外部委託の可能性も維持する。廉価版学校案内の広範囲の配布を目指す。

VI. 西南学院大学事業計画

I. 人間育成:キリスト教精神に基づいた隣人愛の実践

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
共生社会に生きるマインドの育成	貧困、障がい、差別等、共生社会を実現するための課題に出会うプログラムを提供する。

<2025 年度事業計画>

アンケート結果などを検証しながら改善を図っているプログラムを総括し、次の改善に繋げる。

主なプログラムは次のとおり。

- ①被災地支援
- ②障がい者支援講座
- ③学習支援(子ども食堂含む)
- ④海外ボランティア(外部団体補助金支給プログラム)
- ⑤海外ボランティア・ワークキャンプ(貧困問題等の取組み)
- ⑥ベイラー大学交流ボランティア(貧困問題等の取組み)

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学院全体のボランティア活動活性化	・大学生が主となり、ボランティアを通して学院の各学校と直接的・間接的に交流する。 ・大学生が小学校・中学校・高等学校で発表する機会を定着化する(チャペルなど)。

<2025 年度事業計画>

引き続き以下の活動を行いながら総括し、次の改善に繋げる。

- ・小学校・中学校・高等学校いずれかのチャペルなどにおいて、大学生のボランティア活動を発表する機会を設ける。(海外ボランティアワークキャンプ in フィリピンの活動報告を、小学校のチャペルと授業で行う予定。また、ベイラー大学交流ボランティアの活動報告を、中学校又は高等学校のチャペルで行う予定。)
- ・各学校のニーズに応じて、大学生が参加できるイベントなどへ参加する。(小学校学習支援、ネイバーキャンプなど)

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
多様性の理解並びに障がい者支援に関する姿勢及び能力の育成	多様な学生の受け入れと学生の意識の醸成に向けた支援環境を整備する。

<2025 年度事業計画>

大学DE&I推進検討委員会が提出した答申に沿って、西南学院大学学生支援センター(仮称)の設置に向けて、2024 年度に実施した他大学の調査を踏まえ、検討を進める。

2. 教育研究:確かな保育・教育力と新たな知と価値の創造

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
本学におけるアカデミックスキル(≠スタ ディスキル)の定義付け、育成方法の検討	(1)本学における入学前教育、初年次教育、リメディアル教育 ³ について、それぞれの定義、実施方針、効果について検証 し、各教育の実施方法を具体的に検討する。
	(2)スタディスキルに関する新たな科目あるいはプログラムの 開設と運営に係る教員等の配置および共通テキストや共 通コンテンツの開発を行う。
	(3)スタディスキルを含む学部教育等の全学的な学修支援の ため、コーディネーターや SA・TA ⁴ を配備した支援体制 (例:ラーニングサポートセンター等の設置)を検討する。

<2025 年度事業計画>

- (1)入学前教育については、現行の各学部・学科での実施状況を参照し、全学的なあり方や実施運営体制
などについて検討を行う。初年次教育については、2023 年度開始の基幹科目の実施状況を参照し、
必要に応じて、各学部・学科が実施する基礎的な科目内容との調整などについて検討を行う。リメディ
アル教育については、入学前教育及び初年次教育の実施状況を踏まえ、必要に応じて本学における補
習・補充教育のあり方や実施運営体制などについて検討を行う。
- (2)スタディスキル科目(「[遠隔]スタディスキルⅠ(基礎・学びの基本)」及び「スタディスキルⅡ(応用・
対話と表現)」)について、2024 年度の実施状況を踏まえた授業実施を行うとともに、教員を対象とし
たスタディスキルの定着に関する調査を行う。なお、「[遠隔]スタディスキルⅠ(基礎・学びの基本)」に
ついては、2024 年度に作成した授業教材(授業テキストなど)を活用することを通じて、更に授業内容
の平準化を図り、学生の学びの定着を促進する。
- (3)ラーニングサポートセンターにおいて、スタディスキル科目の実施運営を行うとともに、センター教員の指
導の下、ラーニングサポートデスクを通じて、SA・TA による学修支援を行う。ラーニングサポートデスク
については、スタディスキルの定着を軸に、2024 年度の運営状況を検証のうえ、センターの目的に照ら
した学修支援のあり方や更なる利用促進に向けた施策について検討を行う。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
情報教育科目の見直し	数理・データサイエンス・AI を扱う情報科目を開設し、科 目提供体制を構築する。

<2025 年度事業計画>

既に開講しているデータサイエンス科目(「データリテラシー」、「データサイエンス基礎(データ分析)」、
「データサイエンス基礎(AI 活用)」、「データサイエンス実践」)については、2024 年度の実績や受講生
へのアンケート結果、自己点検・評価結果を基に授業内容の見直しを実施する。また、データサイエンス科
目の履修者を増やすための取組みについても継続して実施するとともに、2025 年度より開始するデータサ
イエンス副専攻プログラムの受講を促す。

また、データサイエンス副専攻プログラムにおいて新たに開講される 2 科目(「データサイエンス応用
(データと社会)」、「プログラミング基礎と活用」)についても科目の運営などの支援を行う。

³ リメディアル教育…大学教育を受けるために必要な基礎学力を補うために行われる補習教育

⁴ SA・TA…スチューデント・アシスタント、ティーチング・アシスタント

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
正課科目としてのキャリア教育科目の開講	キャリア教育科目の内容、開講方法、教員の任用基準、教員組織及び科目の検証体制を検討する。

<2025 年度事業計画>

- ・1 年生対象の「ライフデザイン基礎」は、前期 8、後期 8、合計 16 クラスを開講する。
- ・教学マネジメント委員会（2023 年 11 月 14 日開催）で承認された「方針：第一フェーズ」に基づき、4 月の履修指導において履修推奨を継続し、履修者数を 2024 年度実績を目安とする。
- ・2 年生対象の「ライフデザイン応用」は、前期 1、後期 1、合計 2 クラスを開講する。
- ・2026 年度以降も、キャリアセンター特任教員 2 名体制を継続するため、「キャリアセンター特任教員に関する規程」に規定する任用基準に基づき募集・選考を行う。
- ・キャリアセンター主任を中心に、キャリア教育運営委員会において、授業評価アンケート結果、各クラスの履修者数、授業運営の課題、成績評価の妥当性を確認しながら運営する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
外国語教育の検証と充実	「英語＋1 言語」のもと第2外国語においてコミュニケーションが取れるように、日常的シチュエーションにおける運用能力（初級レベル）が身につくための取組と、多文化社会に対応するため複数言語を継続的に学習していくための学習意義を設定する。

<2025 年度事業計画>

2024 年度に引き続き、各言語の初級レベルの運用能力の修得に向け、以下の項目を実施する。

- ①ワールドカフェや語学ラボを通じて、第2外国語による初歩的な会話の実践の場を提供する。
- ②語学検定試験受験者の増加策として語学担当教員と連携するなど、あらゆる機会を利用して、受験料補助制度を学生に広く周知する。
- ③メディア学習室の利用促進を図る。
- ④2024 年度の各種取組を検証のうえ、更なる受験者増や利用促進に向けた施策を検討・実施する。

*KPI の受験者は語学検定試験受験者、利用者数は、メディア学習室の利用者数を指す。

ビジョン及び注力事項の実現に向けた課題	アクションプラン
・「学修者本位のカリキュラム」「単位制度を実質化するカリキュラム」「責任をもって授業科目を提供するカリキュラム」への転換 ・教学マネジメント指針に準じた学修環境の整備	(1)各学科において3つのポリシーの見直しを行い、新たに定めた各ポリシーを踏まえ、カリキュラムマップ⁵、カリキュラムツリー⁶、履修モデルを作成する。さらに、同ポリシーに沿って教育課程の見直しを進め、ディプロマ・ポリシーに合致した授業科目の整備を進める。(関連科目の解消含む)
	(2)各学部における加配教員数を踏まえ、各学部が貢献すべき共通教育に係る担当コマ数を目標値(目安)として設定し、各学部が共通教育への貢献度を高めることを目指す。
	(3)全体のカリキュラムマネジメントや教員組織編制に係る検討、調整、検証等の全学的機能を担う組織体制を構築する。
	(4)学修成果の可視化のために、成績評価基準割合(目安)および科目ルーブリック⁷を導入し、成績評価の平準化を図る。科目ルーブリックにおいてディプロマの観点別評価も採用し、学生別にその達成度を可視化するとともに、GPAの規準を用いて成績分布等の検証を行う。
	(5)教育活動に係るデータを収集・蓄積したポートフォリオ⁸の構築を通じて、学生の成長や教育成果を可視化し、学生、教職員双方がそれらを把握できる環境を整備する。 また、教学IRを推進し、学生のディプロマ・ポリシー達成度やカリキュラムの妥当性の検証及び改正等を推進するための根拠データとして蓄積したデータを活用する。
	(6)メディアを活用した授業(オンライン授業、eラーニング)等の併用により事前の学習(反転学習)や事後の学習(復習)に係る時間を十分に確保できるような授業運営への転換を図る。
	(7)ディプロマ・ポリシーの「C:総合的な学修経験・創造性」を推し進めるために、PBL⁹やディスカッション等の手法を盛り込んだアクティブラーニング(AL)を正課科目や関連する正課外科目に積極的に導入する。
	(8)カリキュラム改革や授業運営方法の改善等、全学的共有と展開を進める。

⁵ カリキュラムマップ…授業科目とディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーとの関係を示した表

⁶ カリキュラムツリー…カリキュラムの年次進行、授業科目間のつながりなど、カリキュラムの体系性を図で表したもの

⁷ ルーブリック…「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、学生が何を学習するのかを示す評価基準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示した評価指標

⁸ ポートフォリオ…学修ポートフォリオ。学生の学修過程並びに各種の学修成果を長期にわたって収集し、記録したもの。

⁹ PBL…Project Based Learning の略

<2025 年度事業計画>

- (1)2023 年度からの新教育課程による授業を実施する。また、教学事項に関する内部質保証サイクルの下、アセスメント・ポリシーに基づき、各種アセスメントの分析結果などを通じて、学生の学修成果の把握と可視化を進め、各学部・センターにおけるカリキュラムの検証などに繋げる。また、DP¹⁰に示す資質・能力の修得度に関する指標の設定について、検討を進める。
- (2)2023 年度からの新教育課程における各学部の共通教育の担当状況を把握するとともに、「西南学院大学教学マネジメントガイドライン」に定める共通教育課程の運営の考え方を踏まえ、貢献度の向上に向けた施策について検討を行う。また、共通教育の運営に係る教員組織の考え方について検討を行う。
- (3)教学マネジメント委員会の下、全学的なカリキュラムマネジメントを実施する。特に、「西南学院大学教学マネジメントガイドライン」において要策定事項とされている、1 クラスあたりの学生数の考え方や教員組織の編制方針、その方針に基づく教員組織編制に関する具体的基準などの策定について検討を行う。
- (4)2024 年度に策定した成績評価の適切性（客観性や厳格性などの担保）に係る考え方に基づき、成績評価の平準化に努める。また、科目ルーブリックを用いた DP 観点別評価を通じて、学生の学修成果の可視化を図るとともに、DP に示す資質・能力の修得度に関する指標の設定について、検討を進める。
- (5)学修ポートフォリオについて、学生及び教員の利用状況を検証のうえ、目的に照らした利活用を促進するための方針や施策、今後の機能のあり方などについて検討を行う。また、学修ポートフォリオに蓄積されるデータを含め、各種アセスメントを通じて得られたデータについて、IR による分析結果などを活用した教学事項に関する内部質保証サイクルの実質化を図る。
- (6)2023 年度及び 2024 年度に引き続き、シラバスに明示された事前・事後学習時間に照らし、その実態を学修に関するアンケートなどを通じて把握する。また、事前・事後学習時間の向上に向け、デジタル技術を活用した授業デザインに係る施策の検討や事前・事後学習時間が確保されている科目の実践例の共有などを行う。
- (7)教育推進プログラムを活用した各学部・学科の各種取組及び学生創発プロジェクト、福岡未来創造プラットフォームの各種事業などを通じて、AL の機会を提供する。また、各種取組みなどにおいて、参加者アンケートや報告書などを通じた学修成果の把握に努め、次年度以降の改善や AL¹¹の機会の更なる創出に向けた検討の一助とする。
- (8)全学的な FD¹²活動の一環として、西南フォーラムやラーニングサポートセンター主催イベントなどを実施し、教育内容や方法、制度を改善するための考え方に係る教職員、学生を交えた情報交換の機会や、授業運営に係る具体的な手法の修得などの機会を設ける。また、学生・教職員 FD 推進部会を通じて、学生の意見や要望などを汲み取り、教学マネジメント委員会にて、具体的な改善などの検討を行う。さらに、2024 年度から開始した教育活動に関するアンケートを通じ、授業の実施方法や教材などの好事例を共有し、全学として教育活動の改善・向上を図る。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学生自身による定期的な活動の振り返り (成長実感の把握)と課題の確認	学生の活動履歴データ(学修ポートフォリオ)に基づく学生指導及び相談を行う仕組みの構築

<2025 年度事業計画>

長期欠席者面談や休学面談時に学修ポートフォリオに蓄積された情報を確認し、指導・助言を行う。また、関係部署からの意見をもとに必要に応じて学修ポートフォリオの改修を行う。

¹⁰ DP…ディプロマ・ポリシーの略

¹¹ AL…Active Learning の略

¹² FD…Faculty Development の略

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
既存の枠組みにとらわれない柔軟な教育活動の実現に向けた検討	学部(学科)を横断した教育プログラムに関する調査と検討を行う。

<2025 年度事業計画>

近年の法改正により設置が可能となった、従来の枠組みを超えた組織(学部等連携課程など)の他大学事例について調査を進め、適宜執行部や会議体へ情報提供を行う。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
教育研究組織の編成に関する検討	社会のニーズに関する情報収集と学部(学科)や研究科等の在り方に関する検討を行う。

<2025 年度事業計画>

2023 年度の教育課程の見直しに伴い、教育支援事務組織の適切なあり方を検討し、組織改編を行う。特にラーニングサポートセンターを支援する事務組織、またデータサイエンス教育を支援する事務組織については、2024 年度から 2025 年度にかけて整備する予定であるため、組織改編に伴う検討を進める。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
本学の教育内容の変化や社会情勢の変化を踏まえた ICT 環境の整備	(1)教育内容の改定や ICT 環境を踏まえた次期 SAINS ¹³ (教育・研究用の ICT 環境)の更新計画を策定し、実行する。
	(2)学生のパソコン必携化に向けて学内環境を整備し、支援体制を構築する。

<2025 年度事業計画>

- (1)2024 年度に実施した SAINS 更新において、稼働状況を確認の上、改善が求められる部分については、構築業者と協力し、速やかに修正を行う。
- (2)2024 年度の SAINS 更新での無線 LAN 接続エリアの拡大、接続台数の増強に引き続き、アクセスポイント毎の利用率確認及び設定の調整を行う。
- また、2024 年度に引き続き新入生向けの Wi-Fi 接続サポート会場を新入生オリエンテーション期間に設置する。
- 2023 年度に学生、教員対象に実施した BYOD に関するアンケート結果や教育活動に関するアンケート結果などを踏まえ、BYOD を活かした授業の実践方法など、好事例を収集する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
研究活動の更なる強化に向けた個人研究費での研究成果の把握および個人研究費のあり方の検討	効果的な外部資金獲得施策を検討する。

<2025 年度事業計画>

独立行政法人日本学術振興会が行う科学研究費助成事業への申請において、個別支援(過去に科学研究費を獲得した申請書の希望者向け公開など)・申請書レビューを行うとともに、運用として定着させる。

¹³ SAINS…西南学院大学総合情報ネットワークシステム

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
研究における産官学連携を推進するための体制整備	研究による産官学連携を推進するための体制整備について検討する。

<2025 年度事業計画>

共同研究・受託研究に関する案内を HP に掲載する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学内進学者の確保による定員充足率の向上	既導入学部には、更なる入試広報を展開すると共に、未導入学部(経済・神・人間科学・国際文化)については、早期卒業制度の導入を検討してもらい、学内進学者の確保に向けて取り組む。なお、早期卒業候補者の大学院入学試験制度の内容についても併せて検証する。

<2025 年度事業計画>

内部進学者の受入れ拡大に向けて、学部の早期卒業制度を導入している研究科(法学・経営学・外国語学、2022 年度導入の経済学・神学)については、学部との連携を強化し、利用者拡充に向けて推進していく。人間科学研究科で早期卒業制度に代わる仕組みとして検討中の学部・修士 5 年一貫制度の導入に向け、同研究科での検討結果を踏まえつつ、大学院の内部進学者の受入れ拡大に向けて、引き続き検討を進めていく。開始 5 年目を迎える「学部生向け座談会イベント」「体験入学プログラム」については、内容の見直しなど含めて検討し、より充実したプログラムを提供し、内部進学者の拡充を図る。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
社会人の受け入れ拡大に向けた社会人向けプログラムの充実	各研究科・専攻別に社会人のニーズに対応した高度専門職業人養成のためのプログラム及び評価方法を検討し、学位取得に向けた制度を充実させる。

<2025 年度事業計画>

社会人の受け入れ拡大に向けて、リカレント教育を支援するために 2024 年度から新たな制度として、既修得単位の認定を導入した。導入初年度の利用はなかったが、引き続き認定過程における問題点や改善点を検討し、社会人が 1 年で修了できる制度など社会人学生の受入れ拡充につながるような施策を検討する。また、オンライン授業の拡充など、社会人受入れを視野に入れた多様な授業形態を模索し、検討を進めていく。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
外国人留学生の受け入れ拡大に向けた外国人留学生向けプログラムの充実	博士前期課程留学生の日本語の授業科目設置及び大学院チューター制度の更なる活用を促進し、外国人留学生向け日本語教育プログラム(修士論文作成レベル)の導入を検討する。

<2025 年度事業計画>

外国人留学生の受け入れ拡大に向けて、日本語教育プログラム(研究生活に必要なアカデミックスキルの修得を目的とする)として 2022 年度に新たに導入した大学院共通科目「応用日本語研究」の履修促進を図るとともに、入試説明会やその他広報において、両取組みの周知を図る。引き続き、全学の国際化推進委員会の取組みと歩調を合わせ、大学院の国際化を推進し、外国人留学生の受入れ拡充を図る。

3. 国際感覚・異文化を受容し、行動できる国際性の修得

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
外国語運用能力を実践する機会の提供	(1)外国語運用能力の向上を目指す科目・課外講座の見直しと体系化を行う。
	(2)海外派遣留学希望者（語学力要件達成）のための TOEFL および IELTS の対策講座等の見直しと体系化を行う。
	(3)既存の協定校との連携を強化するとともに、戦略的に協定校を開拓し、キャンパスの多様性を確保する。
	(4)各種国際教育プログラムを通じて参加者目標値を達成する。
	(5)協定校のオンライン授業を受講し、単位取得後に、本学の単位として認定可能とする制度を整備する。
	(6)海外の大学と共同して授業を行う体制を構築する（COIL ¹⁴ 等）。

<2025 年度事業計画>

- (1)2024 年度に引き続き、e-ラーニングシステムの利用促進と TOEIC スコア向上に向け、以下の項目を実施する。
- ①言語教育センター外国語教員、専任教員、非常勤講師と連携し、授業での利用や紹介など、e-ラーニングシステムの利用促進を図る。
 - ②体系的に語学が学習できるよう策定した課外講座目的別のモデルコースを学生に広く周知し、受講を促進させる。
 - ③2024 年度の各種取組みを検証のうえ、更なる利用促進やスコア向上に向けた施策を検討・実施する。
- (2)2024 年度に引き続き、語学検定受験者数増加や語学力の向上に向け、以下の項目を実施する。
- ①受験料補助などによる受験奨励を継続して実施する。
 - ②語学ラボなどの正課外プログラムや IELTS などの課外講座との連携を継続して実施する。
 - ③2024 年度の各種取組みを検証のうえ、更なる受験者増や語学力の向上に向けた施策を検討・実施する。
- (3)既存の協定校と、学生交換及び教員の教育研究（教員派遣・招へい、共同授業、共同研究など）において連携を強化する。
- ・オセアニア地域の協定校開拓に注力する。
 - ・既存協定校の整理を行う。
- (4)・短期及び長期留学プログラムを実施し、参加者を募集する。留学プログラムの周知・広報は、HP、ポータルサイトに加え、SNS (Instagram) を活用して効果的に行う。
- ・言語教育センターと連携して、語学科目履修者や、語学学習・留学に興味・関心のある学生へのダイレクトアプローチを実施する。
- (5)・海外語学研修において、引き続きオンラインプログラムを実施する。
- ・なお、2025 年度からの「Global Liberal Arts (GLA) 科目」（共通科目）の開設に伴い、2025 年度は「GLA 科目の効果的かつ安定的な運営」に注力する。
 - ・【GLA】目標履修者数：各科目 30 名程度（8 科目合計 240 名（延べ人数））
 - ・【GLA】授業の到達目標の達成割合目標：受講者の 80%（学修に関するアンケート結果）

¹⁴COIL…Collaborative Online International Learning

- (6)・COIL について、協定校や本学教員の要望に応じてマッチングの支援を行う。
- ・なお、2025 年度からの「Global Liberal Arts (GLA) 科目」(共通科目)の開設に伴い、2025 年度は「GLA 科目の効果的かつ安定的な運営」に注力する。
 - ・【GLA】目標履修者数：各科目 30 名程度(8 科目合計 240 名(延べ人数))
 - ・【GLA】授業の到達目標の達成割合目標：受講者の 80%(学修に関するアンケート結果)

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学部留学生支援プログラムの整備	留学生の修学支援体制を整備する。 (日本語教育の強化)

<2025 年度事業計画>

2023 年度及び 2024 年度の新日本語カリキュラムによる教育効果を検証し、教育体制の再検討を実施する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
学部正課授業における日本人学生と別科留学生の交流・協働機会の拡充	学部正課授業における日本人学生と別科留学生との合同授業(英語開講)拡充の在り方の検討と全学的な合意形成に向けた取組を行う。

<2025 年度事業計画>

- ・2025 年度からの「Global Liberal Arts (GLA) 科目」(共通科目)の開設に伴い、2025 年度は「GLA 科目の効果的かつ安定的な運営」に注力する。
- ・【GLA】目標履修者数：各科目 30 名程度(8 科目合計 240 名(延べ人数))
- ・【GLA】授業の到達目標の達成割合目標：受講者の 80%(学修に関するアンケート結果)

4. 経営基盤:永続的な変革と発展を支える柔軟な組織の構築

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
翌年度繰越収支差額のマイナスの解消	各年度(体育館及び西南会館竣工年度を除く)の決算時における当年度収支差額がプラスとなる予算編成を実行する。

<2025 年度事業計画>

過年度の執行状況を考慮し、決算時には当年度収支差額がプラスとなるように予算を編成する。

ビジョン及び注力事項の 実現に向けた課題	アクションプラン
迅速かつ効果的な意思決定システムの整備	(1)全学的な意思決定機関(連合教授会、部長会議等)の役割・審議事項等を整理する。
	(2)大学執行部体制を整備する。

<2025 年度事業計画>

- (1)学長名により、委員会など各種会議の見直しについて学内に依頼し、部長会議及び連合教授会も含めた学内の会議体について、位置付け、構成員、審議事項、開催手法などの見直しを行い、改善可能な会議体から順次改善に着手する。
- (2)学長補佐制度について、実運用における検証を行う。

所在地

学校法人西南学院及び西南学院大学（大学院を含む）

〒814-8511 福岡市早良区西新六丁目2番92号 電話 092-823-3201

学校法人 <https://www.seinan-gakuin.jp/>

大 学 <https://www.seinan-gu.ac.jp/>

西南学院早緑子供の園

〒810-0053 福岡市中央区鳥飼一丁目6番5号 電話 092-761-3408

<https://www.seinan-gu.ac.jp/hoikuen/>

西南学院舞鶴幼稚園

〒810-0053 福岡市中央区鳥飼一丁目6番1号 電話 092-751-6650

<https://www.seinan-gu.ac.jp/youchien/>

西南学院小学校

〒814-8513 福岡市早良区百道浜一丁目1番2号 電話 092-841-1600

<http://es.seinan.ed.jp/>

西南学院中学校・高等学校

〒814-8512 福岡市早良区百道浜一丁目1番1号 電話 092-841-1317

<https://hs.seinan.ed.jp/>